

子どもと健康

令和5年12月（第291号）
子どもの健康を考える会

冷たい北風とともに冬が駆け足でやってきました。子どもたちは寒さなど気にせず元気いっぱい外遊びを楽しんでいます。

さて、11月2日 ぎふメディアコスモス みんなのホールを中心に会場とZoomを使ったハイブリッド開催により、「令和5年度岐阜市こどもの健康を考えるつどい」を開催いたしました。今回はつどいの講演内容を紹介させていただきます。



「一般講演」

解説不登校対策 ～教育医療連携の基本と実践～

岐阜大学大学院医学系研究科教授 小児科専門医・小児神経専門医

講師 加藤 善一郎 先生

現在、全校で小中29万人以上の不登校の子どもがいる。「学校が怖い」学校恐怖症・適応障害であんきじゃない状態であり、家族を含め100万人が苦しんでいる、学校を疲弊する大きな社会問題である。

不登校＝「だいじょうぶ感」の低下である。「だいじょうぶ感」とは、理由はともかく「なんだか自分はOK」だと感じることで、自己肯定感とは少し異なる。たとえ不得意があっても自信がなくても、家族や先生から「見守られている感じ」が持て、「自分は大丈夫だな」という実感があれば学校へ行かない状態にはならない。不登校の主な要因はOD（起立性調節障害）や発達特性、知的アンバランスなどの「内的環境」や、家庭や学校など「外的環境」にある。内的環境のODは必ず良くなる。外的環境の学校風土を変えていかなくてはならない。

地域での実践として、不登校児だけでなく、全ての子ども、教師、保護者が安心して行ける「あんきに行ける学校プロジェクト美濃」が美濃市でスタートした。専門医による支援体制やICTを活用した仕組みを作り、実施していくことで、親も教師も医師もみんなあんきになったという実施効果がある。子どもを中心として、親と教師と医師が「あんきなトライアングル」を作ること。内的環境は医療、外的環境は教育と、それぞれに責務があり、教育医療の連携を取りながら「あんきな学校作り」をしていくことが不登校対策となる。

※あんきとは「心配のないこと、気楽にのんびりしていること」を意味する。

事例 安心できる学校づくり ～東長良中学の実践～

岐阜市立東長良中学校 教諭 教育コーディネーター いじめ対策監

講師 國枝 直弘 先生

中学校は一時期、生徒指導が困難な時代があり明確なルールを設定し規範意識を高めるような指導をしてきた。しかし、時代と共に生徒指導面の見直しや不登校の増加などにより生徒指導の方向が大きく変わった。現在は、生徒自身が「やっていて楽しい」と感じ自らが考えて行動できるようになっている。学校が目指すものは、一人一人の居場所を大切にする4つの校風、互いに助け合う心、人の憂いがわかる心、良いところを認め合う心、違いを受け入れあう心 心を育てることがいじめ防止に繋がり子どもたち一人一人の生き方を育てることになる。

子どもに軸足を置くことから教育が始まる。子どもの命を心から大切に思う保護者がいることを大前提に対応していくことが大切である。子どもに軸足を置き、子どもの声に耳を傾け子どもの考え、創造していく姿勢を大切にしていくこと、それが安心できる学校作りには大切なことである。

「特別講演」

誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策 COCOLOプランについて

講師 文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課長 伊藤 史恵 先生

◎「不登校」の現状

R4年度、全国で29万9000人の不登校の子どもがおり、10年連続増加している。この1年では2割程の増加がみられる。不登校の大きな課題は、不登校が長期化していることです。不登校生徒の内、90日以上（90日とは週5日授業の内、3日以上欠席している状態）欠席している生徒は、16万5000人おり、コロナ禍の前より増加している。また、学校内外で専門的指導を受けていない。早い段階で、相談、指導のできる学習機関「安心して通える学校作り」をすることが大切です。

◎ [COCOLOプラン] とは、

快適で最適な学びの場の確保。心に寄り添いながら進めていくプラン

○不登校によりアクセスできない子ども達をゼロにすることを目指して、3つの柱を強化し、長期的に取り組む方針です。

1：不登校の児童生徒すべての学びの場を確保し学びたいと思った時に学べる環境を整える。

- ・不登校特例校「新たな多様化学校」の設置をする。岐阜市には「岐阜市草潤中学校」があり、不登校の子どもが安心して学べる学びの場となっている。全国で不登校特例校が24校あるが少なく、今後5年間にすべての都道府県に設置し、将来300校を目指している。
- ・身近で歩いて通える学校の中に子どもの居場所を作る校内教育支援センターを設置する。学校には行けるがクラスに入れられない生徒の相談にのったり学習したり、生徒のペースに合わせてサポートして学びの場を作る。
- ・学校以外の場所や学校の空き教室等において支援を行う教育支援センターの設置をする。
- ・民間との連携を取り多様な学びの場の確保する。

2：心の小さなSOSを逃さず、「チーム学校」で支援する。

- ・一人1台端末活用し毎日の健康状態を報告して、心身の状態把握し生徒のSOSを察知する。また、先生に相談しやすい仕組みづくりをすることで問題行動が起きる前の支援につなぐ仕組みを整える。

3：学校の風土の「見える化」を通じて学校を「みんなが安心して学べる場」にする。

- ・子どもの特性に合った柔軟な学びを実現する。快適で温かみのある学校に整備をする。

幼児期の保育においても、子どもを中心に置き、子どもの主体性を尊重しながら、子どもが安心できる環境の中で、遊びを通して学びの芽を育み、心身ともに健康で明るく、自らの力で生きる力を育てていきます。そして、育ちのバトンを小学校へ繋げていきたいと思います。



岐阜市役所 子ども保育課

TEL：214-7825（ダイヤルイン）

FAX：262-1121

Eメール：hoiku@city.gifu.gifu.jp